

# 選挙いくっぺ！

## 若者の選挙への関心を高める

### 【アブストラクト】

本研究は現代の日本の問題である若者の投票率の低下に着目し、若者の投票率の向上を目的として探究活動を始めた。探究活動を進めていくにつぎ、選挙の仕組みの厳正さを感じ、簡単にルールを変えることで投票率を向上させるのは困難であると判断し、SNSを使用して若者の選挙への関心を高めることで、将来の投票率の増加に貢献する方法を模索した。

キーワード: 選挙啓発, 投票率, 政治関心, 18歳選挙権, SNS

### 【本文】

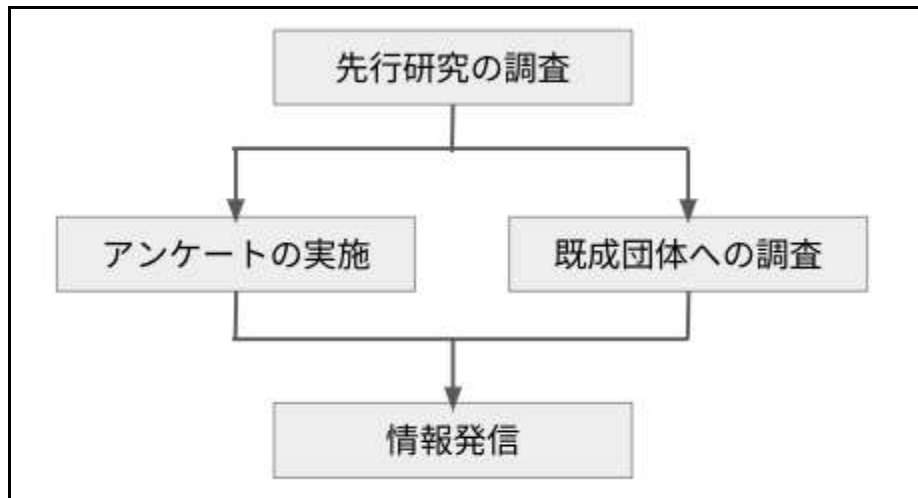
#### I. はじめに

班で探究活動のテーマを決める際に、現代社会の問題の中でも若者ならではの視点で取り組める内容にしたいと思い、数年後には選挙権を持つ私達にも身近な内容として若者の投票率の低下に着目した。右の新聞記事にあるように、若者の投票率だけでなく選挙や政治自体への関心が低下していることも問題として挙げられており、期日前投票などの対策も取られている。この探究活動を通して、投票率の改善だけでなく私達自身の選挙への関心も高めていきたいと考えた。

#### II. 研究方法

はじめに、現在の日本の選挙についての現状を知るために、他国と比較した現在の日本の投票率や年代別の投票率などの研究についての先行研究の調査を行った。そこで、私達の探究活動では宮城県の若者の投票率の低下についてフォーカスを当てて探究を行うことにし、身近な若者である三高生に「自分が投票権を持ったら選挙に参加するか」という質問や、その理由などについてアンケートを取った。ま

た、既に宮城県の投票率を上げるために活動されているアクティベイト仙台ともコンタクトを取り、これまでの活動や選挙に興味を持ったきっかけなどを調査させていただいた。既成団体への調査としては、修学旅行で訪問した大阪市選挙管理委員会も挙げられる。これらの活動を踏まえて、若者の選挙への関心を高めるために、SNSを使用した選挙についての情報発信を行うこととした。



研究方法の流れ

### Ⅲ. 探究内容

#### (1) 先行研究の調査

先行研究の調査では、主にインターネットを用いて年代別投票率の推移などの現在の日本の投票率の現状について調査した。(図1)このグラフからは、年齢が低い世代ほど投票率が低いことだけでなく、全体的に年々投票率が低下していることがわかる。この他にも他国と比較した日本の投票率や投票にいかない人の意見などを調べ、私達自身が選挙に関する知識を得ることができた。

#### (2) アンケートの実施

次に行った三高生へのアンケートでは日本での若者の投票率の現状に対して、投票に「参加する」と答えた人が58%、「どちらかといえば参加する」と答えた人が37%であった。(図2)このことから三高生は選挙への意欲が比較的高いと言える。また、参加すると答えた人の理由は、大きく「興味がある」「行くのが当たり前」という2つに分けられた。(図3)

#### (3) 既成団体への調査

既成団体の調査としては、仙台で活動しているアクティベイト仙台という団体にアンケートに回答していただいた。3件の回答をいただき、その中でも全会一致となったのが、これまでの活動で最も効果を感じたものが街頭啓発という回答であった。(図4)

加えて、修学旅行では大阪市選挙管理委員会の方とお話をする機会をいただいた。選挙現場で実際に活動されている方の意見を聞き、投票率を上げたくても容易に選挙制度は変えられないために難しいことが実感できた。例としては、オンラインでの投票は本人確認が厳正に行うことができない点や秘密選挙の原則が守られる保証が薄い点で困難であることなどをお話していただいた。私達の探究班でもオンラインの投票に興味があったため、実際の選挙現場の厳正さを感じられた。

#### (4) 情報発信

これらの活動から選挙の投票率を私達の活動で直接上げることは困難であると考えたため、SNSでの発信を通して、若者の選挙への関心を高めることを目標にすることとした。SNSでの発信にはインスタグラムを使用し、選挙に関する基本的な情報や様々な選挙形態についてを公開している。(図5)

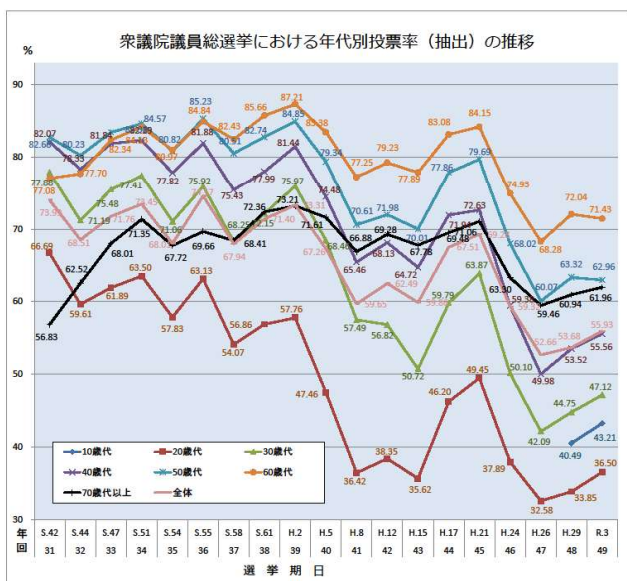


図1 年代別投票率の推移

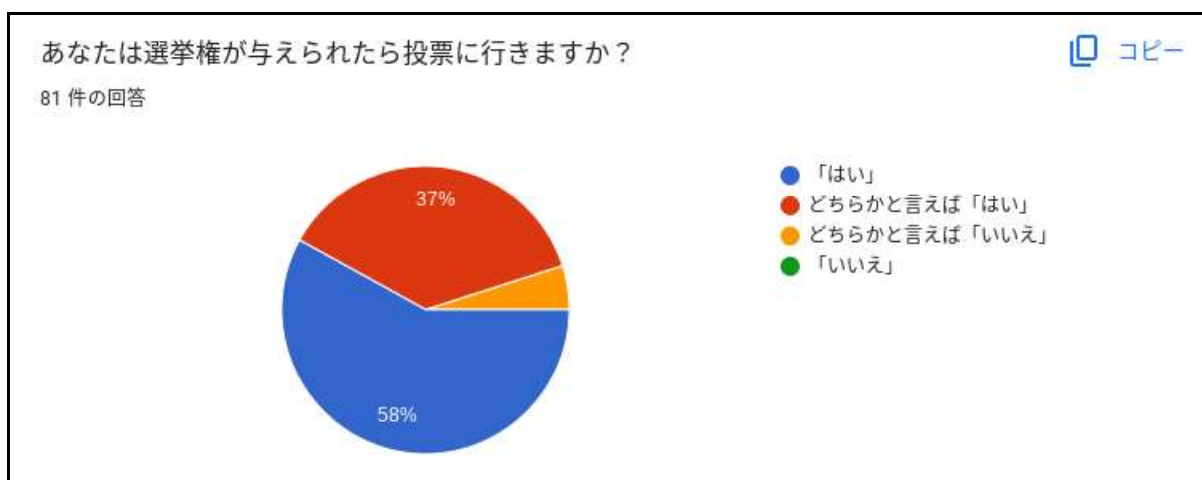


図2 三高生への将来選挙に参加するかのアンケート結果

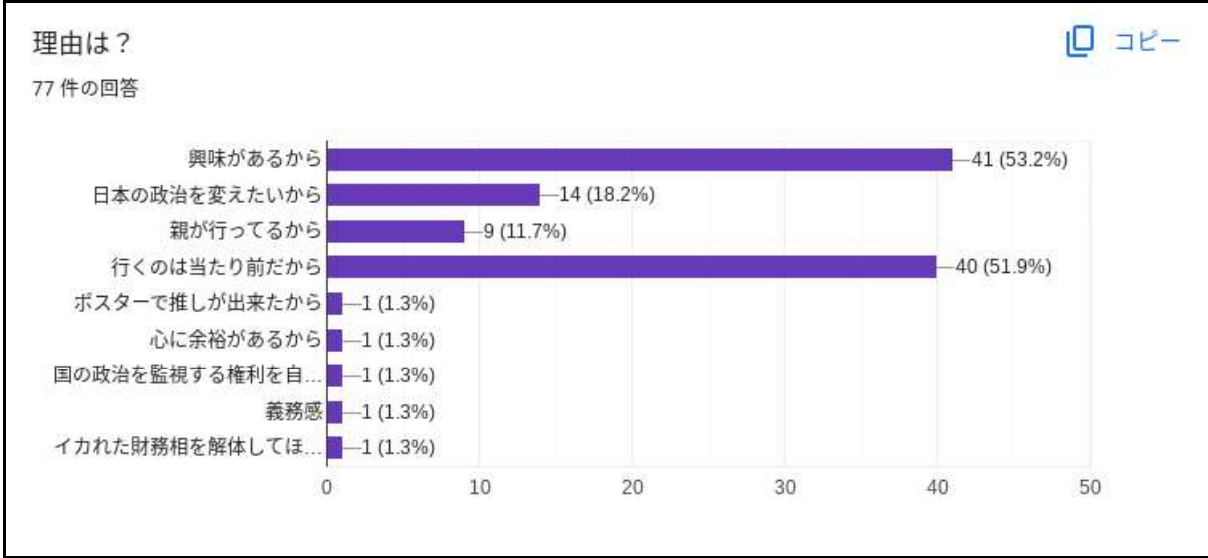


図3 将来投票に行くと言った人の理由

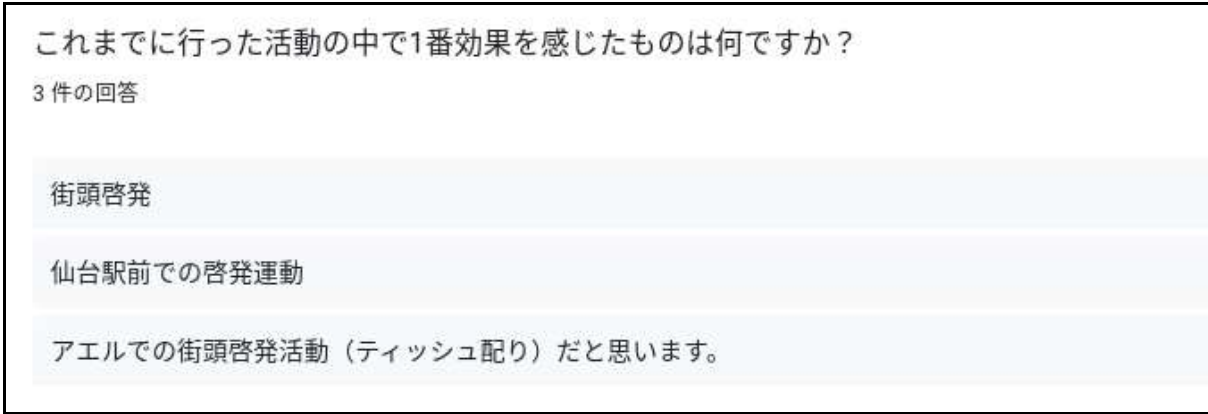


図4 アクティベイト仙台へのアンケート



図5 インスタグラムでの投稿

#### IV. 考察

【個人での考察】

### 1. 三高生へのアンケートについて

日本全体の投票率と比較して三高生の選挙への関心が高いのは、これまでの学習状況や親などの周囲の環境などが要因として考えられる。将来選挙権が与えられた際に投票に行くと答えた人の理由の中で最も多かった「興味がある」というのは、これまでの学習の中で選挙に触れた際に関心を持ったケースや、政治についてのニュースなどに触れる回数が多いケースなどが考えられる。理由として次に多かった「行くのは当たり前だから」というのは、自分の周りの親や兄弟などが投票に参加するのが常になっていることなどが要因として考えられる。

### 2. アクティベイト仙台へのアンケート

アクティベイト仙台に所属されている方の中で大学生の3名の方に回答を頂いた。選挙に関心を持ったきっかけについては主にニュースや学校で聞いたものに対して興味や危機感を持ったという意見があった。この回答からも、学校での学習状況やニュースに触れることの多い家庭環境が重要であると推測できる。また、上記探究内容で示した通り最も効果を感じた活動は街頭啓発だという回答が目立った。街頭啓発では直接人の顔を見ての活動となるため、インターネットなどでの活動よりも効果を感じやすいのではないかと考える。

### 3. 大阪市選挙管理委員会への調査

事前に大阪市選挙管理委員に訪問するにあたってインターネットでの投票や、投票所での候補者の演説動画の配信などが投票率の向上に良い影響を与えるのではないかと考え、それらの新たな取り組みについて話をさせていただいた。選挙管理委員の方によると、既に厳正に決められた規則があるという点や、候補者の平等を守るという点などで難しいとおっしゃっており、私達の探究活動で新たな投票の仕組みを作ることで投票率の向上を目指すのは困難であると考えた。

#### 【班での考察】

#### 1. 情報発信について

Instagramでの発信は私達の目標としている若者の選挙への関心を高めるための良い取り組みであると考えられる。気軽にスマートフォンを見ている中で私達が投稿した内容が目に入れば普段の生活の中でも選挙に気軽に興味を持つことができるであろう。多くの方に広めて見ていただくことは困難であったが、少しでも多くの方に選挙についての知識を広められたことで将来の選挙に参加する人が増加することが見込めると考えられる。

今後の課題としては、選挙に関する情報をより多くの人に広める方法を模索していくことで選挙への関心が高まり、今後の投票率の増加に繋げることができると考えられる。選挙への関心を高めるには、既に選挙権を持っている大人に働きかけるのみでなく、今後選挙権を持つ子供にも選挙が身近なものであると感じさせるために働きかけることが重要であると考えられる。

### V. 終わりに

この探究活動を通して、日本の政治により目を向けられるようになっただけでなく、選挙活動の厳正さと公平性を感じることができた。今後の選挙活動でより多くの人々が主体的に参加したいと思えるような選挙へと発展していくことを望むとともに、一人ひとりの責任感が養われる教育環境やマスメディアへと変化するべきと考える。

これまでの探究活動にご協力いただいたアクティベイト仙台、大阪市選挙管理委員会の各団体に感謝申し上げます。

### 参考文献

<https://www.city.sendai.jp/senkyokanri-kanri/keihatuboranthia/top.html>

仙台市選挙啓発ボランティア「Activate仙台」

<https://www.kochi-tech.ac.jp/library/ron/pdf/2016/03/14/a1170495.pdf>

吉田匡宏 著 2016年 若者の投票率向上に向けての解決策の提案